

おお大勝利

平成 19 年度山東サッカー部報第 16 号 (10 月 17 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

悔しいけど、力に変えよ

10月13日(土)、14日(日)と選手権二次予選を戦いました。13日は天童高校と。村山地区のリーグの違い(山東は1部、天童は4部)はありますが、地区新人では同じく4部の山形学院に負けた「実績」のある山東新人チーム。気持ちを引き締めて試合に臨みました。

天童はエースの3年生をスウィーパー(一番後ろ、キーパーの前)で使う守備的布陣。この選手はおそらく村山地区の中で足の速さだけなら一番だと思いますが、この選手を後ろで使ったおかげで相手の攻撃に怖さがなく、山東がポゼッション率での圧倒をそのまま得点につなげ、圧勝。後半、その選手をFWで起用してきましたが、遅きに失する感は否めず、スコアは6-1。

14日は前日苦しんで山商を倒した日大。調子が上がらないのか、山東相手にも、攻めあぐむ。日大の選手は1対1は強いものの、グループで如何に攻めるかという戦術眼を欠き、また判断力を問われる場面でお約束のようにコーナーフラッグに蹴りこむため、力を得点に結びつけることができない。1対1で劣る山東は、ボールが足につかず、落ちていてボール回しができないため、日大同様、FWを早めに使わざるを得ない展開に。そうした中でも、前半の決定機を日大と同じくらい作ることができ、試合は五分五分。「よしこのまま後半だ」と思いかけた前半終了間際、不用意に与えたCK(コーナーキック)を見事なヘディングで決められ、先制を許す。

後半は山東の足が止まり(実際は止まっていないですがボールへの寄せが甘くなり)、セカンドボール(ルーズボール)をことごとく拾われる嫌な展開に。後半10分から骨折明けの2年小池を投入し、勝負をかけるが、オフサイドトラップ崩れ(相手FWのオフサイドを狙ってDFがポジションを前に持っていったが失敗)から2点目を許す。終了間際、柏倉のすばらしいヘディングシュートがCKから入るも、その後10秒ほどで3点目を決められ万事休す。

惜しい試合でしたが、基本的には力不足は否めず。体力(持久力・筋力)でも闘争心でも相手に分がありました。保護者の方々やOBの皆様には遠いところまで応援に来ていただき、また応援団は両日とも応援いただき感謝申し上げます。応援団はハーフタイムに「下駄踊り」まで披露していただきました。

昨年は、県新人で準優勝し2月の東北新人に出場する予定だったため、冬場のトレーニングに励みがありました。今年度は、もう公式戦終了(一年生大会はあります)。冬場の練習には去年以上の意識の高さが問われます。選手諸君は今年の悔しさを持続させ、冬場のトレーニングにつなげて欲しい、悔しさを力に変えてほしい、と願っています。